

令和 4 年度予算概要

1. 令和 4 年度の予算編成方針

令和 2 年度及び令和 3 年度はまん延した新型コロナウイルス対策のため、4 度の緊急事態宣言が発出され、また主要都府県ではまん延防止等重点措置が継続された状態であった。その中で長期間に亘って国民生活は近年例を見ない制約を受けることとなった。日本山岳会における諸活動も、いわゆる「自粛要請」に従い中止や延期あるいは規模縮小といった対応を取らざるを得ず、令和 2 年度、令和 3 年度における事業遂行は当初の想定をはるかに下回る結果となっている。また、収支の悪化はここ数年継続し改善の努力が続けられているが、会員の高齢化による退会者の増加等の要因が収益改善の妨げとなっている。

このような状況を踏まえ令和 4 年度予算は「登山活動の再開」と「支部活性化」及び「若年層会員の獲得と育成」を方針とし、事業計画が円滑に推進できる体制を確立すべく策定した。

収益は会員数の増加策がさほど効果を現していないことから会費収入を現実ベースに引下げ、減少させることとした。寄附金収入について昨今の経済情勢は悪化しているが、他に収入源がないことから寄付勧誘に総員で尽力することを前提に増額している。本会への寄附は社会貢献度が高いことをアピールし、税額控除団体としてのメリットを訴求することで、120 周年記念事業だけにとどまらない広範な寄附・募金活動を継続して展開する必要性が高まっている。

一方、費用については、令和 4 年度中の事業活動がコロナ禍による制約が生じる可能性もあるが、速やかな再開を目指して通常運転としての予算計上を心掛けた。また、重点事業への配分も特に心を配らねばならなかった。なお、支部予算については、令和 2 年度、令和 3 年度の予算の未消化分の繰越利用も認めており、支部事業の早急な復活・活性化を支援する。120 周年記念事業は令和 2、3 年度の持ち越し分を併せて実現できるよう手当した。

その結果、令和 4 年度予算は経常収益 111,125 千円、経常費用も 111,125 千円、当期経常増減額及び当期一般正味財産増減額は 0 円を目標とした均衡予算を策定した。

2. 経常収益

受取入会金 2,400 千円は令和 2 年度実績及び令和 3 年度 1 月までの実数に基づく推計で 120 名の増加を見込んだ。受取会費は、ここ数年継続している会員数減少傾向の歯止めをかけるべく講じた施策が功を奏しない現状を鑑み、実績をもとにした現実的な数字として 46,800 千円を想定した。受取寄附金等は経済情勢の厳しい中、非常に困難であるが、他に大きな収入源がない現状では均衡予算とするために 31,970 千円の予算とした。令和 4 年度は 120 周年記念事業開始 3 年目であり必要な資金は前年にもまして増えているので、募金委員会の設置等組織的な宣伝活動を展開し寄付金の獲得に努めなければならない。そのために改革事業推進委員会は「入会者増加」と「寄附増加」を確実に実現するための施策を今年度中に策定し、実施に移さなければならない。このほか、事業収益を 12,520 千円、参加者負担金等の雑収益を 13,866 千円見込んでいる。これらにより経常収益は前年度より 4,099 千円増加の 111,025 千円となる。

3. 経常費用

(1) 事業費

主な事業費として、出版事業費（「山岳」及び「山」）は横這いの 12,260 千円、支部事業費は微減の 17,227 千円としている。支部事業は地域によって制約の程度が異なるが、当年度中の早急な復活を期待している。山岳研究事業費は、当年度の上高地山岳研究所の施設利用が三密回避から制限されるため利用見込みを低く抑えているが、費用は固定費が主となり、前年度の修繕費等の支出を無くし 7,538 千円としている。120 周年記念事業は、令和 3 年度も予定していた事業

の大半が次年度以降へ延期となり、下記の5プロジェクトの実施を決定した（本部助成額5,690千円）。

このほか、その他事業費には晩餐会費用と年3回の支部連絡会議費用等を見込み13,800千円を計上した。この結果、事業費は昨年度より5,190千円増加し106,725千円となる。

	ヒマラヤキャンプ	エベレスト登頂 50周年記念 フォーラム	山岳古道調査	グレートヒマラ ヤ・トラバース	日本・エクアドル 外交関係樹立登山	合計
(経常収益)						
寄付金・助成金	2,000			3,000		5,000
参加者負担均等	900			4,007	2,300	7,207
計	2,900			7,007	2,300	12,207
(経常費用)						
活動費用	3,900	190	1,000	9,007	3,800	17,897
差引本部助成金	1,000	190	1,000	2,000	1,000	5,690

(2) 事業管理費と管理費

事業管理費として19,325千円、管理費として4,400千円を見込んでいる。事業費の一部である事業管理費は3つの公益事業と共益事業に配分した職員の給与手当と福利厚生費、支払手数料等である。管理費は主に本部事務所の管理に係る費用である。いずれも経費の節減に努め費用の圧縮を図ることとする。

事業費と管理費を合わせた経常費用は前年度に比べ5,090千円増加の111,025千円となる。

以上の結果、経常損益（当期経常増減額）及び当期一般正味財産増減額は0円となる。費用の増加は抑えがたく、寄付金の獲得が奏功しない場合には赤字決算とならざるを得ない。

4. 資金調達及び設備投資の見込み

令和4年度における資金調達及び多額の設備投資の見込みはない。

以上

令和4年度収支予算案 (対前年比較)

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	令和4年度 予算	令和3年度 予算	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2	2	0
特定資産運用益	7	7	0
受取入会金	2,400	2,000	400
受取会費収入	46,800	55,200	△ 8,400
受取準会員入会金	400	400	0
受取準会員会費	1,800	1,800	0
事業収益	12,520	11,030	1,490
受取補助金等	1,360	1,228	132
受取寄附金等	31,970	23,624	8,346
雑収益	13,866	11,735	2,131
経常収益計	111,125	107,026	4,099
(2) 経常費用			0
事業費	106,725	101,535	5,190
出版事業費	12,260	12,260	0
図書管理事業費	5,760	5,900	△ 140
調査研究事業費	6,506	2,400	4,106
指導研究事業費	594	610	△ 16
山岳環境保全事業費	520	570	△ 50
支部事業費	17,227	18,372	△ 1,145
高尾の森づくり事業費	2,008	3,860	△ 1,852
ユースクラブ事業費	2,010	2,100	△ 90
海外事業費	200	200	0
海外登山助成金	500	500	0
JAC登山隊助成金	0	0	0
山岳研究事業費	7,538	7,698	△ 160
ミニ水力発電事業費	190	190	0
家族登山普及事業費	390	370	20
120周年記念事業費	17,897	13,800	4,097
その他事業費	13,800	13,380	420
事業管理費	19,325	19,325	0
管理費	4,400	4,400	0
経常費用計	111,125	105,935	5,190
当期経常増減額	0	1,091	△ 1,091
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	1,091	△ 1,091

令和4年度収支予算書内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：千円)

科目	公益事業会計					共益事業	法人会計	合計
	登山振興	調査研究	環境保全	共通事業	小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益							2	2
特定資産運用益							7	7
受取入会金				1,200	1,200	480	720	2,400
受取会費				23,400	23,400	9,360	14,040	46,800
受取準会員入会金				200	200	80	120	400
受取準会員会費				900	900	360	540	1,800
事業収益	320	1,950		700	2,970	9,540	10	12,520
受取補助金等	570	90	700		1,360			1,360
受取寄付金等	11,494	313	5,784		17,591	14,379		31,970
雑収益	4,879	120	1,155		6,154	6,107	1,605	13,866
経常収益計	17,263	2,473	7,639	26,400	53,775	40,306	17,044	111,125
(2) 経常費用								
事業費	39,226	15,573	5,320	8,700	68,819	37,906	0	106,725
出版事業費	3,530				3,530	8,730		12,260
図書管理事業費		5,760			5,760			5,760
調査研究事業費	3,456	1,050		2,000	6,506			6,506
指導研究事業費	594				594			594
山岳環境保全事業費			520		520			520
支部事業費	7,449	793	1,762		10,004	7,223		17,227
高尾の森づくり事業費			2,008		2,008			2,008
ユースクラブ事業費	2,010				2,010			2,010
海外事業費	200				200			200
海外登山助成金	500				500			500
JAC登山隊助成金								0
山岳研究事業費		7,538			7,538			7,538
ミニ水力発電事業費		190			190			190
家族登山普及事業費	390				390			390
120周年記念事業費	17,897				17,897			17,897
その他事業費						13,800		13,800
事業管理費	3,200	242	1,030	6,700	11,172	8,153		19,325
管理費							4,400	4,400
経常費用計	39,226	15,573	5,320	8,700	68,819	37,906	4,400	111,125
評価損益等調整前増減額	△ 21,963	△ 13,100	2,319	17,700	△ 15,044	2,400	12,644	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 21,963	△ 13,100	2,319	17,700	△ 15,044	2,400	14,944	0
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 21,963	△ 13,100	2,319	17,700	△ 15,044	2,400	14,944	0
一般正味財産期首残高								239,996
一般正味財産期末残高								239,996
II 指定正味財産増減の部								
当期一般正味財産増減額								
一般正味財産期首残高								38,967
一般正味財産期末残高								38,967
III 正味財産期末残高								278,963